

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1473600425
法人名	社会福祉法人秀峰会
事業所名	グループホーム風の生活館
訪問調査日	2015年3月13日
評価確定日	2015年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 26 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473600425	事業の開始年月日	平成13年3月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	社会福祉法人 秀峰会		
事業所名	グループホーム風の生活館		
所在地	(245-0016) 神奈川県横浜市泉区和泉町5932-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成27年3月3日	評価結果 市町村受理日	平成27年9月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から13年、日々、地域の方々のご理解とご支援を頂きながら、職員一人ひとりが伝統を継承する意識を持ち、日々の活動に励んでいる。緑豊かで家庭的な雰囲気のもと、入居者の方々が毎日生き生きと生活出来るよう、入居者本位のサービスを提供出来るよう心掛けている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成27年3月13日	評価機関 評価決定日	平成27年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- グループホーム風の生活館は社会福祉法人秀峰会が経営母体です。介護支援25・訪問介護31・訪問看護18・訪問入浴4・通所介護20・グループホーム8・医療4・施設事業3・地域ケアプラザ6、教育2等、数多くの福祉事業を神奈川県内に運営する内の一つです。
- 事業所では法人理念『人間が主体である。連帯の輪を無限に広げて行く。日に日に新たな今日を創造していく。』を入社時に説明をして、以降はホーム内に掲示してミーティング時など機会ある毎に確認しています。日々の生活の中に近隣の方々との出会い・関わり・支えあいを大切にし、我家同然の喜びと安心・安全のある暮らしを目指してホーム運営が行われています。
- 地の利は地下鉄立場駅前から、バス4分、バス停「芝原」下車徒歩1分のバス通りに面した住宅地にあり、敷地が広く、ホーム前の庭先には早咲きで有名な川津桜が3月には附近の何処よりも先に花見を楽しませてくれます。居室からは、富士山の雄姿が望める恵まれた環境にあります。
- 地域交流では町内会に加入し、町内の清掃活動に参加したり、利用者の日々の散歩や近くの商店での買い物を通して日常的な交流が行われています。秋には、デイサービスと合同の事業所主催のお祭りに地域の方々の参加も得、交流があります。更に、地域ボランティアの来訪を受けて習い事でも地域との繋がりが図られ、親しまれる存在になっています。
- 運営推進会議は役付き参加者の方々の日程調整の関係から、近くの同業他社グループホームと合同開催の要望を受け、両ホーム長と家族と関係者で2ヶ月に1回、夫々のホームの活動状況と今後の運営に関してや、行事予定等を報告し、質問、意見、提案等を頂きながら話し合っています。他に学ぶ効果も得て、結果は運営に反映させサービスの質向上に繋がっています。
- 重度化・終末期ケアについて、希望を伺い、家族・事業所・医師との繰り返しての話し合いで、合意に至れば覚書を交わしホームでの看取り介護が行得る体制が作られています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の「連帯の輪を無限に広げていく」という理念のもと、日々、近隣の方々や地域との関わりを大切にしたい援助を心掛け実践している。	法人の理念「人間が主体である」「連帯の輪を無限に広げていく」「日に日に新たな今日を創造していく」を、事業所理念としホーム内に掲げ、理念に沿って利用者の日々の生活の中に近隣の方々との出会い・関わり・支えあいを大切にして我家同然の喜びと、安心・安全のある暮らしの場を提供するように心がけ、運営が行われています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節ごとにお誘い頂く行事にご利用者と共に参加するなど日常的に交流がある。	自治会に加入していて、町内会の盆踊りや秋祭りなど季節ごとの誘いを頂き、利用者と共に参加しています。また、町内会の諸行事の一つである清掃活動にも参加して日常的な地域交流が行われています。更に、ボランティアによる、カラーバード（塗り絵）などの手習いや、得意芸の披露での交流もあります。日常的には利用者の買い物を通して近くのお店の方と地域の一員として交流が行われています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事の参加他、施設の秋祭りに近隣の方々をお招きした際、運営推進会議の時などに現状をお伝えし、ご理解を頂く努力を継続している。	/		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容を報告した際にアドバイス頂いた内容を他の職員と共有、検討のもと改善を行ったり、催し物のお誘いを頂く時には積極的に参加サービスの質の向上に繋げている。	町内会長、副会長、民生委員、地域包括支援センター職員、高齢障害課職員等、地域に根ざした方々の日程調整の関係から、近くの同業他社グループホームミモザと合同で開催して欲しいとの要望を受け、両ホームの管理者家族を加えて2ヶ月に1回、夫々のホームの活動状況と今後の運営に関してや、行事予定などを報告し、質問、意見、提案などを頂きながら話し合い、結果は運営に反映させてサービスの質向上に繋げています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度も町内のご都合で、GHみもざと合同で運営推進会議を行っている。その為、他ホームの様子も把握出来たり、より多くの方からのアドバイスを頂く事が多く、日々の活動に還元している。	市の高齢障害課職員とは運営推進会議の他、行政通達などの不明点や疑問点などに関して質問を行い、指導を頂いています。また、ホーム情報と事故報告等を行ない、研修案内をもらう等、行き来する機会を作り、連携を図っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内グループホーム合同の研修や事業所内研修でその内容を学び、周知徹底しながら、身体拘束をしないケアを実践している。旭区役所の介護保険担当者に出席して頂いている。	重要事項説明書と運営規定に、「身体拘束その他利用者の行動は制限しません。但し、生命または身体保護のため、緊急やむない場合はこの限りではありません。この場合でも速やかな解除と報告同意を得て対応をする」と謳い、法人内グループホーム合同の研修や事業所内研修で、その内容を学び、禁止行為とそのデメリットを共有認識して廃止に繋げるようにしています。玄関施錠は立地の関係から家族の了解を得て施錠をし、入居者の外出には職員が見守り同行で安心と安らぎのある暮らしを実現しています。	今後の継続	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内のグループホーム合同の研修や事業所内研修でその内容を学び、虐待防止の周知徹底に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、必要性を理解していると共に内容を他の職員にも伝えている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時にはきちんと説明を行ない、行き違いの無い様、難解な事柄は具体例を交えて説明しその都度ご理解頂いている。契約書は双方で同じ物を保管している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を契約書に明記してある他、施設内にも掲げている。	入居契約時に重要事項17に記された苦情相談窓口とその対応について説明を行っています。日常的な利用者の苦情は直接聴くように努め、さらに、運営推進会議への出席時や面会来訪時に管理者や職員から生活状況の報告と共に、意見、苦情等も聞いています。意見等は記録に残し、カンファレンス等で検討をして、回答と共に運営に反映するようにしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務や申し送り時、毎月の定例会議で各職員の意見を募り、業務の改善、ご利用者の処遇の向上に繋げている。	事業所では日々の業務申し送り時と、月1回の定例会議時に、要望意見を聞く場を設けています。管理者と職員間には日頃から気軽に話せる関係が作られ、意見や提案を聞いて業務改善やサービスの向上に反映しています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の立場や経験に応じた勤務状況、実績を把握した上で各自がやりがいや向上心が持てるようサポートしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や意向、習熟度を踏まえた上で、研修に参加して頂き、学んだ事をホームで共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	秀峰会グループホーム8事業所13ユニットあり。月一回の頻度で各ユニットより1名以上参加する形で業務に付随した研修があり出席している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでご本人が困っていること、不安な事、求めている事等をご本人自身からよく聞く機会をつくるなど関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用に至るまで多くの不安を持たれる事は往々にあるため、ご家族の皆様が納得して頂けるように、見学やお話しをする機会を随時持ち、不安や求めている事を良く伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方のニーズを良く伺い、医療の必要性も考慮した上で、他のサービスの利用も含めて入居の妥当性を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に同じ居で生活するという視点を持ち、人生の先輩として尊敬の念を持ちながら接し、日々の暮らしを充実した物に出来る様、支えあう関係を築ける様、努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	秋祭りやクリスマス会等の行事の際に参加して頂いたり、受診の付き添い・外出・居室内の衣類の衣替えなど可能な限りご協力頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで培ってきた個々の生活習慣を尊重し馴染みの場所や家族以外の知人とも疎遠にならない様行事へのお誘いや面会の機会を提供頂ける様働き掛けている。	日頃の会話や、また言葉が不自由な方とは仕草などで今の思いを推し量るようにして、出来るだけ意思に沿った支援を心がけるようになっています。また、以前に通っていた所や通い慣れたお店を訪れる等、家族の協力の下に行われています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の日々の生活状況、性格などを考慮した上で相互に交流が図れるよう、日々コーディネートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご家族からの相談や情報提供に努めている。退去しても遊びに来る方がいたり、その後どうしていらっしゃるか、こちらから転出先を訪問する時もある。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いや意向を出来る限り生活の中に取り入れる事の出来る様コミュニケーションをはかり、コーディネートに努めている。	本人の思いや意向について、出来る限り生活の中に取り入れるようコミュニケーションを図り、その方の思いを汲み取れるよう努めています。また、家族からの情報も加味して思いを押し量っています。その上で職員間の共有を図り、出来るだけ思いに合う支援に努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に至るまでの生活歴、サービス利用状況の把握に努め、それらの情報を日常のケアに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の方々日々の状態把握に努め、変化を見落とさないよう、随時又は申し送り等で職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人始め、ご家族関係者から聞き取った内容をもとにアセスメントを策定し、具体的な介護計画ができる様努めている。	介護計画の見直しは通常3ヶ月毎に行い、変化のある場合は都度見直しをしています。職員の日々の観察を基に話し合い、計画作成者を中心に看護師・担当医師の意見に加え、家族要望も聞いてカンファレンスで検討し、計画を作成しています。出来た介護計画は、本人・家族に確認を頂いてプランを実施しています。また、モニタリングを計画的に行い、計画とのずれが生じないように努めています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の活動内容、気づきや様子など個人記録に記録し、それらを落とさないよう、申し送り等で情報共有としている。又それを踏まえ介護計画にも繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	ご本人は勿論の事、ご家族のニーズに対し出来る限り対応して行く様努めている。（買い物・外食、レクリエーション時など）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方や地域の方々との継続的な繋がりを持てるようコーディネートしている。（地域のお祭りや消防訓練など、近所の方を通じた交流がさかんにある。）		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向を尊重し納得の得られた主治医と連帯が取れる様にしている。希望がある場合には、主治医となって頂ける医療機関を紹介している。	本人、ご家族の意向を尊重し、納得の得られた主治医を決めています。今までの主治医の継続診療を希望される場合はホームからの必要情報の提供を行い、家族対応での受診にて診察情報は共有するようにしています。定期的な訪問診療・治療で利用者の医療的管理と適切な医療支援が行われています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護担当者または訪問診療担当看護師にその都度、個々のご利用者の状況を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した場合、早期に退院が可能か否か、ご家族と共に病院を訪問し、必要な情報を収集した上で病院関係者（看護師・担当医・ソーシャルワーカー等）と退院に向けたケアの内容を協議するなどしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化した場合や終末期のあり方を確認している。その後、そのような状況が生じる場合、ご本人はじめ家族の意向を踏まえた上で、施設として出来る事を提案し、介護の継続にあたっては、本人を取り巻く関係者全員がその内容を共有出来る様、コーディネートしている。	重度化・終末期ケアについて、出来ること出来ない事を入居時に家族に説明しています。医師または看護師が終末期と判断した時点で、看取り介護の希望の可否を伺い、家族・事業所責任者・医師と話し合い、最善の方向を見出し合意に至れば覚書を交わし、ホームで看取り介護が行われます。ターミナルについて、勉強会を行い、全職員に理解共有を図り、体制作りを行っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況、状態に応じた迅速な対応が可能な様、定期的なシュミレーションを行うと共に、全職員に内容を周知徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期の避難訓練の際には消防署の指導を仰ぎ、実施している。又、近隣のお宅には火災や災害時に協力を頂ける様、伺いを立てて訓練に参加頂いている。	重要事項説明書・運営規定に「災害が生じた時、職員は利用者を適切な方法により避難を講じるものとする。」「非常災害に備えて定期的に避難訓練を年2回行なうものとする。」と謳い、避難誘導路及び緊急連絡網の整備と共に、夜間想定を含め(3~4回/年、内1回)は所轄消防署指導の下に、近隣の方の参加と、同法人1FLのデイサービスと合同で避難訓練を実施して、防災体制が構築されています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの人格、プライバシーについて、尊厳を保つ行動が出来ているか振り返る機会を研修等で確保する機会を持ち日々のケアの中に役立っている。	入居者を人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損ねることの無い言葉遣いと態度に心がけています。またホームでは、尊厳を保つ行動が出来ているか振り返る機会を研修等を通して行っています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の難しい方でも、個々の状態に応じて、表出出来る様な働きかけを行い、それが最大限可能な様にコーディネートしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、業務優先とした視点は持たず、その場の個々の方に合った臨機応変な対応を心がけ、傾聴しながら、自己実現が図れる様な支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の意向を尊重した支援を心掛けている。意向を持たれる方には家族に何らかの協力を依頼するなどし、実現できるよう対処している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関わる各場面においても好みや出来る事を重視したコーディネートを行い、個々の残存能力に応じた働き掛けを心掛けている。	食材配給業者のレシピ付き食材を使って、職員によって利用者の味の好みなども採り入れて調理しています。調理下ごしらえや、盛り付け、配膳、下膳、食器拭きなど、出来る人に役割を持って食事作りに加わってもらっています。また、その方に合わせた形態の食事提供で、楽しみながらの食事が職員と共に入居者のペースで行われています。誕生日は、おやつ時にケーキで祝っています。また、1階のデイサービスと合同企画で、年1度はお寿司などの出張屋台も取り入れた楽しい食事支援が行われています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養価を考慮したメニューをもとに、個々のご利用者の状態に合わせた調理を行ったり、個々の方の嗜好や摂取量を確認の上、必要な対応や配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科による指導のもと、個々の状態に合った口腔ケアが出来る様、声掛け、見守りを行い、必要な方には職員が磨き残しが無い様、仕上げを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の申し送りの内容や記録により、失敗の要因が、何処に有るか検討を行っている。快適な排泄が可能ないように、日々の観察に努め、必要な対応が統一した形で提供できるよう支援している。	自立排泄での生活を目指し、観察と排泄チェック表を利用した、その人に合った声かけ・見守りで、支援が行われています。また、日々の申し送りの内容や記録により、失敗の要因が、何処に有るか検討を行い、次に生かすようにしています。快適な排泄が可能ないように、日々の観察に努め、必要な対応が統一した形で提供できるよう支援しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはヤクルトやヨーグルトを提供するなどしたり、日々、散歩やアクティビティを兼ねた運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	頻度、時間等の業務の都合にとらわれないよう、個々の方の意向を尊重しながら、気持ち良く入浴が出来る様援助している。	週2回の入浴で、時間の決まりもありますが、頻度、時間等の業務の都合に捉われないよう、利用者一人ひとりの意向を尊重しながら、気持ち良く入浴が出来るよう支援しています。入浴を拒む方にも、時間や人を変えて声かけで促し、無理強いすることなく支援が行われています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々、各々の方の習慣や日中の活動状況を踏まえながら、快適な睡眠や休息が取れる様、支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診察時の主治医からの話や個々の処方箋の内容を誰が見ても分かる様な形でファイリングし、その内容については全員で共有している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の方の生活歴、残存能力を見極めた上で、役割に繋げられる場面をコーディネートしたり、張り合いや喜びを感じて頂けるような援助に努めている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りご本人の意向やご家族の意向に添い、買い物や外食等に出掛けられる様支援し、内容によってはご家族に協力を頂くなどして実現出来る様にしている。	出来る限り、本人の意向やご家族の意向に添って、買い物や外食等に出掛けられるよう支援し、内容によっては、ご家族に協力を頂きながら本人の意向の実現に向けて支援しています。散歩希望者には、天気の良い日は、職員とホーム近くの買い物なども交えた散歩コースや、近くの公園にも出掛けて楽しんでいます。また、車を使って足の不自由な方も含めて海軍通りのさくら見物や紅葉見物等、遠出なども行っています。		今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じ、買い物時のお支払いをお願いしたり、自己保管して頂いている。外出時など、自ら選び購入する喜びなどお金を使う楽しみを味わって頂ける様配慮している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人の方と年賀状や葉書のやり取りを行える様、電話で近況を伝えることの出来る様、随時コーディネートしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各空間の環境面にも着目し、快適に過ごして頂けるよう、空調や照明、TV等の音の具合を調整したり、季節に応じた花や写真を展示すると、各空間の環境面に配慮している。	ホーム内は落ち着いた風情で、清掃が行き届き、騒音や異臭も無く、居間兼食堂には高窓からの採光も良く、明るいです。居間には、テーブルの他、ソファも置かれ、季節に応じた花や写真を展示し、各空間の環境に配慮して寛げる工夫がされています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるよう、ソファや椅子を共同空間に複数配置したり、時には、そのような関係が構築できる様、援助している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度品に囲まれることで得られる安心感や居心地に繋げられるよう、ご本人やご家族に相談しお持ち頂くなどしている。	居室にはエアコン・押入れ・ソファが備えられ、持込には収まる範囲のもので慣れ親しんだものをお持ち下さいと入居時に説明し、各部屋には(防災)カーテンの他、夫々の馴染みの整理箆笥、椅子、鏡台、家族写真、ぬいぐるみ、更に位牌等が持ち込まれ、夫々思いの設えで自宅を思わせる工夫がされています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の方の出来る事、わかる事を見極めた上で、それらが日々実現出来る様、安全面にも気を配り、自立に向けた生活が可能なように環境面の援助も行っている。			

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム風の生活館

作成日 平成27年3月13日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	防災面の対応強化（引き 続き、右記内容の継続を していく）	有事に備えた避難訓練、 啓蒙を定期的に行う	消防署の指導の下、具体 的な計画を策定し、定期 の避難訓練を実施してい く（夜間想定避難訓練は 引き続き近隣のお宅に参 加して頂けるよう依頼し ていく）	年度/4回
2	13	業務標準化の推進を継続 していく	法人内各ホームで持ち 寄った情報をもとに事業 部内の会議で検討。各種 マニュアルを協議、策定 し現場にフィードバック していく	新たな服薬マニュアル（改 訂版）、勤務マニュアルを 事業所に導入していく	半年～1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。